



図1 位置図

先日、六年生の担任から質問を受けました。「児童から黒岩地区に『正嘉銘板碑』というものがあるらしいと話が出ましたが、それはどこにあるもので、また、それは何でしょうか?」ということでした。

今回はこの碑について説明します。まず、冒頭の質問の場所についてです。共和地区にあり、道路沿いに小さな案内板も出ています。この案内板から西の方の山側に向かって百

しょうかめいいたび
正嘉銘板碑

「正嘉」は元号
一二五七〜一二五九
(鎌倉時代)

たんぼう
黒岩探訪

4

KUROIWA
くろいわ

メートルくらい入った墓地の中に建てられていきます。(図1★地点)

価値については、板碑の中では群馬県内で八番目、富岡市内では二番目に古い一二五八年に建てられたもので、非常に貴重なものです。これらの理由から富岡市指定重要文化財になっています。

ここで、そもそも「板碑」とは何でしょう? 板碑は、十三世紀から十六世紀にかけて作られた供養塔の一種で仏を供養するためのものです。このような碑を建てる風習は、鎌倉時代の新興宗教の浄土宗を信仰した当時の武士団を基盤に広まりました。石材は、この碑に用いる場合人気があつた「緑泥片岩(りよくでいへんがん)」です。この石の産地は鐙川右岸で、富岡市では額部地区より南側の地域になります。甘楽町秋畑あたりではこの石がとても多く見られます。大きさは高さ百三十センチメートル、幅三十五センチメートル、厚さ約七センチメートルです。

さて、何が書かれているか興味があるかと思いますが、中央上部の大きな一字は、梵字で阿弥陀如来を表す字のキリーク(図2)です。中央下部には「極重悪人 無他方便 唯稱念佛 得生極楽」(極めて重き悪人、他に方便無といえども、ただ念仏を唱えれば、極楽に生を得る)と書か



写真 正嘉銘板碑



図2
梵字のキリーク
(阿弥陀如来のこま
とを示しています。)

れていきます。念仏を唱えれば極楽浄土に往生することができるとい浄土信仰にもとづいた内容です。特定の個人のためではなく、人々のために建立したと考えられます。

黒岩地区にとって、この碑があることで鎌倉時代に武士階級(農民を兼ねる)又はそれに近い立場の者が存在していたことが分かる重要なものなのです。十二世紀から十六世紀は発掘調査でも遺物が非常に少ない時期で、また書物もほとんどないため石造物で証明できるこのような板碑は非常に貴重です。